

南伯援協、今年も巡回診療

森口医師ら3千キロ走破

南日伯文化援護協会(森口幸雄会長)では毎年、南部2州3千キロにわたる巡回診療を行っている。今年も最後にサ
ンタカタリーナ州ラーモ
ス移住に立ち寄った。7
月末に3泊4日でラーモ
スでは実施され、63人
が受診した。
同地の受診は11年が
38人、昨年が60人と

増えており、「森口エミ
リオ先生が日伯両語で
丁寧に診てくれるおかげ」と地元関係者はメ
ルを編集部に寄せ、「年
一度の診療を心待ちにし
ている移住者が沢山い
る。巡回診療を続ける南
日伯援護協会の活動をコ
ロニアに知ってもらいた

い」と感謝している。
細江静男医師から娘婿
の森口幸雄医師、その
子息の森口エミリオ医師
と三代にわたり、南2州
の日系移住地は恩恵を受
けている。
エミリオ医師が客員
教授をしている横浜市大
医学部からも、5年ほど
前からこの「ブラジル
日系永住者巡回診療健診
実習」として巡回診療に
参加するようになり、
参加医師の専門に応じた
診療・検査・調査がおこ
なわれるなどしている。



地元の皆さんと記念撮影
(後列中央のネクタイをす
る男性が森口医師)

樹海

無医地域に医師を国費派遣するマイス・メジコ計画に応募する伯人医師が全然足りないとの報道に接し、「この国に赤ひげ先生はいないのか」と以前書いた。ところが嬉しいことに南伯には日系の先生がいると本紙11日付に掲載された▼南日伯文化援護協会が毎年行なう巡回診療の森口エミリオ医師らだ。南部2州3千キロを移動し、最後にサンタカタリーナ州ラーモス移住地に立ち寄った時の話だった。同医師が客員教授をする横浜市大医学部からも参加しており、日伯協力型マイス・メジコスみたいだと自分か」と洗っていが、ししぶポルト・アレグレで生体検査した結果、前立腺ガンだと判明し、摘出手術を受けて助かったこともあったと聞く▼ラーモスでの巡回診療は連日深夜まで行なわれ、そんな医師団と援助の醍醐味だ。(深)